



第43回 卒業証書授与式 学校長「式辞」

三月もなかばを迎え、雪解けも進み、日脚も伸びて、ようやく春の訪れが実感できるようになってきました。春は出会いと別れの季節とも言われますが、いよいよ今日は卒業生の皆さんとの別れの日となりました。三年間の中学校生活、そして九年間の義務教育を終え、新しいステージへと歩みを進めていく皆さんへ心よりお祝いを申し上げます。今日までよく頑張りました。卒業、おめでとうございます。

本日は皆さんの卒業を祝い、本校PTAの唐原会長をはじめ役員の方々、新札幌わかば小学校の高橋智美校長先生や、本校学校評議員の皆様、地域町内関係団体の皆様をご来賓に迎え、また、たくさんの保護者・ご家族の方々にもお集まりいただき、こうして盛大に式を挙げていきますこと、まことに喜ばしく思います。卒業生の皆さんには、自分たちが家庭や地域において大切に育てられ見守られてきた存在であることに、あらためて誇りと感謝の気持ちをもって旅立って行ってほしいと思います。ご来賓の皆様、本日はまことにありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。いま一人一人に卒業証書をお渡ししましたが、この緊張感のなか、皆立派な態度で受け取ってくれたこと、とてもうれしく思います。いま手元にあるその証書は、中学校でのこの三年間、教科の授業をはじめ、特別活動や総合的な学習の時間、あるいは部活動など、たくさんの、そしてさまざまな活動に取り組み、経験を積み重ねてきたことの、そしてまた、友達との関係や自身のあり方に悩んだり迷ったりしながらも、しなやかにたくましく成長できたことの証だと思えます。中でも、私が常に皆さんに伝えてきた、「できることには全力で取り組み盛り上げること」、「少し難しそうなことに勇気をもって挑戦すること」、という青葉中の教えを、皆さんがしっかり体現し、後輩のよい見本となって活躍してくれたことはとても立派でした。皆さんにあこがれる後輩たちが、よき伝統として、更に自分たちらしさを加えながら、しっかり継承していくことを約束してくれると思います。

今日は旅立つ皆さんにもう一つ、いや三つ、私からお話しさせてください。それは、去年と今年、皆さんの教室にお邪魔したときにお伝えしたことでありますが——— これからの人生の中で、チャンスをつかむための努力を惜しまないでほしいこと、そして他者を害する可能性のあることから遠ざかること、更に、幸せは他者との比較ではなく自分の内面から生まれるものと考えようこと———の三つです。

一つめのは、努力と準備ができていない人のところにはチャンスの女神はやって来ない、いや、チャンスの女神は実はどこにでもいるのだけれど、努力をして待ち受けていない人にはつかまえることはできないという教えです／二つめのは、自分さえよければとか、面倒だからとか楽だからとか、そんな理由で、他者を傷つけてしまう可能性があることを安易にやっちゃってはならない。取り返しがつかないことが起きてしまった場合の多くは、そもそも気を付けていれば自分の意思で避けられたはずのことで、まさに後悔しかない事例ばかりだと言えます。だから、常に危険は自分からしっかり遠ざけておくべきだという教えです／三つめは、人生にはいろんなことが起こるのですが、もしうまくいかないこと、不運と思うことがあった場合でも、人と比べて悔しがったり、人を恨んだり腹を立てたりしている間は、幸せは絶対にやってこない。幸せな気持ちは自分の心から生み出して、他者に、特に家族や仲間、分け与えることで大きく育てていくものだという考え方をしていこうという教えです。

私自身、これまで教員として四〇年を超える日々を過ごし、さまざまな人と出来事に出会い、多くのことを学び、経験してきましたが、たどりつきたいま、皆さんに対して願うのは、長い人生、若く充実して活動できる期間は短いかも知れませんが、でも、頑張り、楽しむことは生涯続けてほしい、途中から後悔と反省ばかりが続くような生き方はしてほしくない、自分らしく自分が主役の人生を、前向きに、そしてしたたかに、生きて生きて生き抜いてほしいということです。いま皆さんの目の前には前途洋々たる将来が、いまは想像もつかないような新しい世界が、まさにどんどん広がっていているところです。誰の前にも平等に広がるこの景色の中で、どう生き

て、どうチャンスをつかんでいくのか、すべて一人一人の皆さんしだいです。これまで十五年の経験と成長、そして青葉中での教えと学びを胸に、しっかり頑張っていってください。

結びになりますが、卒業生の保護者の皆さま、お子さまの中学校のご卒業、まことにおめでとうございます。立派に成長した子どもたちの姿は、保護者の皆さまが深い愛情とたゆまぬ努力で子育てを続けてこられたことの結実です。十五年間、さまざまなお苦勞があったことと思います。保護者の皆様におかれましても、いまのこの式が、このひとときが、我が子が義務教育を終えるまでの大きな責任を果たせたことへの充実感と喜びを存分に感じていただける機会になったら幸いです。

第四十三回卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。お祝いにつけてくださったご来賓、保護者の皆様、まことにありがとうございました。これからも地域に暮らす子どもたちの見守りと、本校の教育活動への変わらぬご支援をお願いし、卒業式にあたっての私からの挨拶とさせていただきます。

令和七年三月十四日
札幌市立青葉中学校
校長 中山 勝喜

送辞

冬の寒さが和らぎ、春の訪れを感じる今日の佳き日。青葉中学校での三年間を終え、晴れて卒業の日を迎えられた三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

思い返せば、私たちが入学したばかりの頃、不安と期待を胸に校門をくぐったのが、まるで昨日のこのようです。そんな私たちを温かく迎えてくださったのが、三年生の先輩方でした。右も左もわからない私たちに優しく声をかけ、時には励まし、時には背中を押して導いてくださいました。

特に印象に残っているのは、部活動見学の日のことです。不安そうにしていた私に、先輩が「一緒にやろう」と声をかけてくださいました。その一言がどれほど嬉しく、どれほど安心したことか。それをきっかけに始まった学校生活は、先輩方の温かさのおかげで充実したものとなりました。

陸上競技大会では、どの競技でも声を枯らして応援する先輩方の姿に、私たち後輩も勇気をもらいました。学校祭では、みんなが楽しめるようなイベントや展示を企画し、観客を魅了する演劇で学校全体を盛り上げてくださいました。そして合唱コンクールでは、ただ歌が上手いだけでなく、心を込めて歌い上げる姿に感動しました。会場中が先輩方の歌声に引き込まれたあの瞬間を、今でもはっきりと覚えています。

どんな時でも責任感を持ち、前向きに学校を引っ張ってくださった三年生の姿は、私たちにとって憧れでした。先輩方が築いてこられた青葉中学校の伝統を、私たちもしっかりと受け継ぎ、さらに素晴らしい学校にしていきたいと思います。

卒業生の皆さんは、これから新たな道へと進んでいけます。時には困難にぶつかることもあるかもしれませんが。そんな時は、青葉中学校での三年間を思い出してください。仲間と支え合い、努力を重ねた日々は、きっと皆さんの力となるはずです。

最後になりますが、卒業生の皆さんの未来が希望に満ちたものとなることを心から願い、送辞とさせていただきます。

令和七年三月十四日
在校生代表生徒

答辞

試練の冬を終え、暖かく、落ち着く、そして出会いと別れの季節である春。私たちはついに中学校生活という一つの旅を終え、また新たな旅に出ようとする今日、私はここで見る最後の景色を目に焼き付けたくになります。きっとこれが、三年間で、そして私の人生の中で見る、もっとも美しい光景だと思えるからです。

皆さんは今日、いつものように学校に来る道で、何を思ったのでしょうか。眠い目をこすりながら、友達としゃべりながら歩くのも、今日で最後かもしれません。でも心なしか、ここから見える皆さんの顔はどこか明るく、明日への決意に満ち溢れています。思えば、三年前のこの時期も、きっと同じ顔をしていたのでしょうか。小学校から中学校へと上がり、新生活の始まりとなった入学式、そわそわしながら入場し、どこかぎこちなかったのを、今でも鮮明に覚えています。入学して間もないころ、右も左もわからなかった私達を、温かく迎え入れてくれた青葉中学校の先輩方や、先生方。そのような雰囲気の中で背中を押された私は、小学生の頃から一変し、部活動や生徒会活動に積極的に参加するようになりました。当時は挑戦することが怖いと思っていたのが、自分の中で当たり前になり、誰かのために何かをやりたいという思いが、強くなっていったのを覚えています。

一年生の皆さん、中学校生活はあっという間です。できるうちにできることを、やりたいうちに行動を。時間は多いようで少ないです。残りの二年間の一日一日を大切にしてほしいと思います。

さて、そうしているうちに時は過ぎ、私たちは二年生へと学校生活の駒を進めました。ぶかぶかだった制服も、みるみるうちにちょうどよくなり、少しずつ大人になってきているなど感じていたころ、ついに私たちにも後輩という存在ができて、少々戸惑いながらも、どこかうれしく、そして先輩になるという、あやふやだった感情がはっきりと確信に変わりました。憧れていた先輩という立場になり、自分の望んでいた、なりたかった先輩はこういうものなのかと葛藤することもありましたが、様々な行事や活動において、皆さんが笑って過ごしている姿、元気な姿を見て、人にはそれぞれの色があり、自分にとっての正解を見つけることが大切だと学びました。

二年生の皆さん、残りの一年、どう過ごすかは自分次第です。それぞれの色を見つけ、色んなものを見て、自分にとっての正解、そして生きる形を見つけてみてください。きっとそれは残りの一年を豊かに、それでいて彩りのあるものにしてくれるはずです。

そして一年前、ついに私たちは青葉中学校の最高学年である三年生へと、そして自分の未来を決める年齢へとなったのです。

急ではありますが、ここで私は三年生の皆さんに一つ、質問があります。この一年、後悔せず、すべてをやり切り、これでよかったと、中学校生活最後の年がこれでよかったと今、思えますか？正直なところ、きっと多くの方がどこかで後悔や無念を心に秘めていることでしょう。かくいう私もその一人です。ふとしたときにあの時ああしていれば、こうしていればと自責の念に駆られることがあります。

しかし私はこう考えます。後悔しているのは何かに向かって努力した、殻を破って挑戦した証だと。

きっと、今まで私の話を聞いてくれた人なら今日、この場を借りて皆さんに何を伝えたいか分かるでしょう。これからの人生、どうか挑戦をやめないでほしい。卒業式でもいうのかと、何回目だと思いかもしれませんが、少し話させてください。私たち三年生は、学校祭や合唱コンクール、部活動や委員会、その他の学校生活で、各々が色々な事に挑戦し、全力で取り組んできました。その一つ一つがこれからの自分を作る材料となると私は確信しています。どんな人でも何かに挑戦して、そのチャンスを掴めば、何か得られるものがあるはずです。ぜひ自分で挑戦をし、そして自分の物語を作ってほしい。人生の主演は自分であり、頑張るのも自分です。私はこの青葉中学校で、困った時や苦しい時に助けてくれる大切な人たち、一生の仲間と出会えました。

ですが、残念ながらそんな代えがたいこの生活も、今日で終わってしまいます。身も心も成長し、人間として、個人として複雑に、それでいてシンプルになっていく私たち。どんなに悩んでも、後悔してもこの先を切り開くのは自分しかない。どうか未来はきょううまくいくと信じてください。うまくいかない時でも一人じゃない。この三年生のような仲間がきっといるはずです。

三年生のみんな、改めて感謝を伝えさせてください。本当にありがとう。つらい時、苦しい時、楽しい時、うれしい時、色んな感情を共にした皆さんを忘れることはありません。全員で過ごしたこの三年間、こうして出会えたことに感謝をし、個性豊かな自分を存分に生かし、道は違えど、これからも挑戦し続け、頑張っていきましょう。未来へ向けた期待と決意、出会いと別れの寂しさを忘れずに、全力を尽くし歩むことを誓い、答辞とさせていただきます。

令和七年三月十四日

卒業生代表生徒